

# 災害に強い集合住宅を推進

## エンジン、浜松にモデル物件

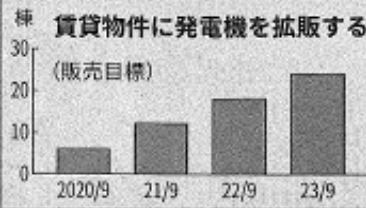
LPガス販売のエンジン（浜松市）は、非常用LPガス発電機を集合住宅向けに販売する。今夏に自社所有のマンションに発電機を導入し、「災害に強い集合住宅」として賃貸マンションの所有者らに売り込んでいく。2020年度に6棟での導入を目指す。

## LPガス発電機 集合住宅に販売

集合住宅は高層階まで水を送るため、給水ポンプと受水槽を設置しているところが多い。地震や台風で停電が起きると、水道も使えなくなる事態が多発している。浜松市では18年10月、台風24号による大規模停電が発生。「電気だけでなく、水も使えなくなったマンションが多く出た」（ハウジング事業部の山崎孝次長）。発電機があれば、災害時でも最低限の電力と水が供給できる。LPガス発電機はディーゼル式に比べて騒動音が静かで、夜間でも

## 災害時、電力と水供給

苦情が出にくいという。販売するガス発電機は1棟12戸のマンションの場合、設置費などを含めて1000万円ほどで導入できるという。人口減で世帯数も減少に転じるなか、「災害対策で他物件と差別化したいマンション業者などの導入を見込んでいる」（山崎次長）。エンジンは発電機の販売のほか、新規のガス供給需要を開拓できる。発電機を導入した物件の入居率が伸びれば、ガス販売増につながる。大規模停電から19年1月末までの4カ月間で、エンジンへのガス発電機の問い合わせは、民間企業や医療機関を中心に125件にのぼった。前年同期は6件だったことから、「災害対策への関心が急速に高まっている」（山崎氏）とみている。企業の福利厚生策として、社員寮などへの導入提案もしていく考えだ。今夏までに、浜松市北区の自社マンション「グレフ三方原」に発電機を導入し、モデル物件として活用する。マンション所有者や管理会社、建築関係者などに公開してPRし、23年度には24棟への販売を目指す。



まずモデルとして自社物件に発電機を導入する



浜松市では18年10月、台風24号による大規模停電が発生。これにより、電気だけでなく水も使えなくなったマンションが多くありました。こうした事態を重く受け止め、エンジンでは、災害に強い集合住宅を推奨していくため、LPガス発電機普及を推進していきます。

平成31年(2019年)2月23日(土)

日経新聞掲載